

# ワークショップ① ゼロカーボン・キャンパス (地域が大学が先駆ける)



勝亦 圭 講師 浜島 直子 教授



林 靖人 副学長

感性情報学が専門



全学化は  
どうやって

浸透はどの  
ように感じて  
進んだのか?

悩みながら進んでいる  
イベントの登壇者か  
をいじる

マスコミにも  
取り上げ  
られた

教育と職責  
どうやって  
働かせる?



俗に言う教養  
課程でやる

## アジェンダがあいそ社会が読

緊がり

社会

見

学び



地域企業との連携は  
もともとやっている(900社)

## 1. 大学の環境への取組

自然エネルギー 100%

### 千葉商科大学のゼロカーボン化

ゼロキャンパス・ワーク  
「ゼロキャン」

メガリーダーがある  
経営判断

最初は約60% → 100% 目指す!

学部目標 → 全体へ

公開講座でおわりを巻き込んでいく

建学の精神があった(実学と商業の両立)

## 学生の取組

自販機をビルから  
減らしてもらう



学長の  
リーダーシップ  
4つのプロジェクトが  
動いている

実学の  
学び直し



別の大学でも教えているが  
学生も地域とつながりたい  
という話があった

学生は地域を知らない

信州大学の  
ゼロカーボン  
キャンパス化



文系中心の  
大学だと  
思うが  
再エネに  
どう取組  
むのか?



オンラインな  
地域とのつながりは  
減っている...

学生にお  
技術があつて  
普及するのは  
商いのせい



自弁化している

アクティブラーニング  
として取組むと良い  
一部からはじめる

まず宣言  
してしよう  
支援者が現れること

→ 広島大学の取組

地域のニーズ寄りな  
新しい防災教育  
など

- ① 大学病院のゼロカーボン化
- ② 5キャンパスで同時に進めていること

課題

地元と向きあい 基盤を作る

ex. タケノコガラン構想



創るエネルギー = 使うエネルギー  
CUCエネルギーという機関がある

やることは  
何とやる



防災を通じて 環境  
(減災) について  
自弁化 している

スーパークとキャンパスを通じて取組み中



江戸川の水害リスク  
転出の原因にも  
キャンパスは高台にある  
防災に取り組んでいる



サステナビリティプラン  
を作っている  
ロジックモデルも

まずは計画

ワークショップ

## 2. 企業・地域にどう促すか



# 3. 人材育成

大学の教育は  
政策にも影響  
教壇にいる  
20人の後には  
400人

毎年50万人が  
大学を卒業している



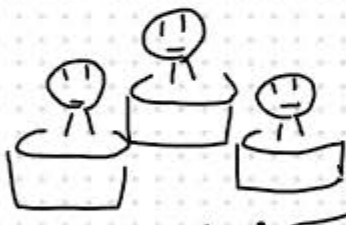
**ENGINE**  
動力となる人材を作る  
↓ 自分で動ける  
**円陣** ↓ チームを  
↓ 組み

大学自身が正しい選択を  
している姿を見せる



カーボンニュートラルは地域社会の在り方  
そのものである。様々な領域に及ぶ  
**学びのチャンスになる**

3大学での授業



自分の大学がやっていることを知らない  
↓  
学生が学び合う環境になっている

大学での学びが社会の在り方に直結している

**地域を再度定義する**

- ① 土地、制度
- ② 人(コミュニティ)

キャンパスという  
空間の再認識

大学と地域  
  
どう連携?

**自治体との連携が必要**

その地域を出た人もその地域の  
**関係人口**である  
大学で大切なのは **場作り**

地域との定着 ⇒ **学生と地域をつなぐ**  
(キャンパス作りも工夫する)

インボジの感覚を学生にもってもら

卒業生との交流、リカレント教育など